

福祉のしごと ふくしごと

誰もが住み慣れた地域で
安心して住み続けるために

誰一人取り残さない 地域社会の実現に向けて

● 座談会

人に向き合い、地域を支える

～私たちが福祉の仕事をする理由

● データでみる世田谷

● 有識者インタビュー

長谷川 幹氏 (世田谷公園前クリニック名誉院長)

● 若者の声

せたがや福社區民学会学生理事・実行委員

● 福祉のしごとの魅力

渡邊 美佐緒氏 ((福)ビーハッピーみのりの家施設長)



人に向き合い、地域を支える

～私たちが福祉の仕事をする理由

- 藤巻 佳祐 氏：(福)奉優会 特別養護老人ホーム弦巻の家施設長*
- 塚越 典子 氏：タウンライフケア桜上水サービス提供責任者*
- 和田 真吾 氏：(福)南東北福祉事業団東京リハビリテーションセンター
世田谷障害統括施設長兼障害成人部門施設長
- 武田 朋子 氏：(福)世田谷区社会福祉事業団訪問看護ステーション芦花所長
- 並木 裕太郎 氏：介護職員教員課程*
- 進行：瓜生 律子 世田谷区福祉人材育成・研修センター参与

*Kaigo PRIDE アンバサダー



仕事に就いたきっかけ

◎藤巻 特別養護老人ホーム弦巻の家の施設長の藤巻です。高校時代、進路に悩んでいる時に訪問介護の仕事をしていた母の「何か資格を取りなさい」とのアドバ

イスがきっかけで2年間福祉系の専門学校に通い「資格を取れば将来は少し安心」という軽い気持ちでこの仕事に就きました。当時はこの仕事を20年間も続けるとは思ってもなく。大変やりがいのある仕事だから続いていると思っています。

◎塚越 タウンライフケア桜上水で訪問介護事業所のサービス提供責任者の塚越です。50歳過ぎまで、一般企業で仕事をしていて、このままでいいのかな?という思い、会社を辞めて、雇用保険をもらいながら実務者研修を受講しました。約半年学校に通い、幅広い年齢層の方と勉強して、福祉の仕事ができるか心配でしたが、学んでいるうちに「面

白い!」と思いい資格を取得して、今の事業所に就職して、8年経ちました。その間、働きながら介護福祉士の資格も取得しました。

◎和田 東京リハビリテーションセンター世田谷、障害部門の統括施設長の和田です。大学卒業時は就職氷河期で、一般企業に営業職として就職しましたが、休んだら籍がなくなるという時代で、一年足らずで退職しました。その後、障害者施設に事務員として入職しましたが、「現場の仕事がしたい」と申し出て支援員になり、通信教育で社会福祉士の資格を取りました。その後、今の法人にケアマネジャーとして入職し17年、福祉の現場でやってきました。

◎武田 訪問看護ステーション芦花の所長の武田です。20年以上病院勤務をしていましたが、一人の患者さんに色々関わるのが難しくして…。高齢社会で在宅の看護が必要になると思い訪問看護師になりました。



藤巻 佳祐 氏

緩和ケアはとても大事だと思いい、緩和ケア認定看護師の資格を取りました。看護師になったのは、母から「看護師はどう?」と言われて、安直な考えですが、手に職を持つことは大事だと思ったのがきっかけです。今まで続けているので、やはり自分に合っていたんだと思います。

◎並木 神奈川県立保健福祉大学介護教員課程の並木です。学校卒業後、建築資材専門の卸売業の営業を5年間務めていた頃、同居の祖父が認知症になって、親身に介護して下さる介護の方に出会い、介護の仕事は、なんて良い仕事なんだろう。と思いい、会社を辞めて、専門学校で介護福祉士の資格を取得して、芦花ホームに

18年程勤務して、現在、介護教員になるため、介護教員養成課程で学んでいます。

「辛かったこと」「大変だったこと」

◎並木 この仕事はチームで動くことが大事ですが、一人で抱え込んでしまう癖があり、辛かったです。色々な職種の方々とともに、助け合いながら進めていけば良かったと、反省しています。利用者の方の関わり方が、人によって違うので話し合いを重ねサービスを組み立てるためには、うまくコミュニケーションをとることは大切だと思います。

◎武田 夏が暑くて辛いです。エアコンもないお宅のお風呂介助は、こちらが倒れそうと思うことがあります。雨・風・台風・雪の中でも、みんな頑張っているんです。60歳過ぎて頑張っている方もいるので、訪問時の移動は課題だと思いいますが、仕事で辛いことはないです。ステー

シヨン内で話し合えるので、大変なことはありませんが、みんなでクリアできています。ご家族の方に説明が伝わらないという悩みは今でもあります。

◎和田 圧倒的に辛かったのはコロナ禍でやりたいことが全然できなかったことです。障害福祉は地域移行という新たなステージに入っていますが、外出行事も悪みたいと言われ喫茶店の営業もできませんでした。今ではコロナが落ち着き障害者の喫茶店もオープンでき、色々な取り組みができるようになり地域との接点も持てるようになってきたので良かったと思います。



塚越 典子 氏

◎塚越 ご家族との関わりの中で親御さんを思う気持ち

ちが強く独自の「介護ポリシー」を持つ方や反対に何もしない方もいらっしやるので、そのような間に入って調整して行くのが難しいこともありました。でも、仕事で得る喜びの方が多い、大変なことは消されていく感じです。一人で訪問しますがなにかあると、職員同志助け合い、一人で抱え込まないようにしています。

◎藤巻 入居者さんがお亡くなりになる時はすごく辛い。その方たちと出会えたから、今もこの仕事を続けていると思っていますが、その経験は次に活かしていかなければならないと思います。ご家族には「この施設に入れて良かった」と感謝の言葉をいただきます。職員とご家族とでしっかりと利用者の生活をサポートしていくのが我々の大きな使命と思っています。

やじがらひんごん

◎藤巻 未経験の職員、学

生アルバイト、外国人職員もすごく増えていて、介護技術を覚え、知識を増やして、介護職員として成長していく姿を一番身近で見られるのはすごく幸せで、この仕事をやっていて良かったと思います。施設長として人材育成やマネジメントは大変ですが、いかにその方の生活が豊かに幸せになるか、と考えたときに、介護の仕事の未経験の職員からフレッシュな考え方で、色々気づかされることも多いです。

◎塚越

福祉の仕事は自分

にはできない、向いてないのではと、思っていました。が、やればやるほどのめり込んでいます。やっぱり人が好きだからかな。表情が硬かった人が明るく笑顔になると、自分が見ええることに、自分が関わったこと、看取りの方の最期に無言の意思疎通ができたことは、自己満足かもしれないませんが、本当にやりがいのある仕事だと思っています。

◎和田 福祉の仕事に就い



和田 真吾 氏

が来てくれた時や「武田さん

た頃は、利用者さんと信頼関係を築いて、良いケアを行うことがやりがいでした。現在では「地域移行」意思決定支援」が身を結ぶところになって、そこにやりがいを感じています。自分たちの仕事が地域に浸透していくことが、施設長という立場でより強く感じられます。利用者さんが地域の中で生きることを実現していく時に、今の仕事ができる幸せだと思います。今後は在宅生活を支えるためにも、地域がうまく回っていく必要があると思います。

◎武田

訪問看護師になっ

て、看護師としてお一人おひとりに向き合っています。拒否的な方が、信頼してくださった時や「武田さんが来てくれた時や「良かつ

た」という言葉は、やりがいにつながり、病院の看護師には、もう絶対に戻れないと思うくらい、訪問看護はやりがいがあります。若いスタッフが育っている様子を見るのも嬉しいです。近隣の病院、あんしんすこやかセンター、ケアマネジャーとの関わりは多いですが、在宅療養について知らない方も多いので、在宅療養や訪問看護を知ってもらうのも課題かなと思っています。

◎並木

特養ホームに入職

したところ、医師と職員で本当にどこか旅立つのを見送るような雰囲気で見送るような雰囲気で見送る。その時に「自然な死」を初めて経験し、本当に枯れるように自然に息を引き取るのは、生まれるのと同じくらい自然なことだということを入職もない時に経験し、看取りに関わるのもやりがいかな...と思います。



武田 朋子 氏

知識と技術の 習得が大切

全く違いますが、基本的なことが分かっていないと、ケアに活かせないし、「今こういう状態か」というのが分からなくなります。一人で訪問に行きますが、医師や他のスタッフとの連携では、基本を押さえ、今こういう状況を把握し、共有する必要があるので、常に勉強だと思っています。

◎並木 仕事をする上で「根拠」を説明することは大切で、根拠を説明するには介護の知識と技術が不可欠です。そしてデータを積み重ね、説明することが大切だと最近分かりましたが、

もっと早く知っていたらばと思います。昨日、実務者研修の講師で、少し難しく細かいところを説明したら、みんながわかってくれたんです。本当について昨日のことなんですけど、自分はずっとモヤモヤして分からなかったことが、数時間で分かってくれたというのは本当に嬉しく思っています。

◎和田 三障害を一体的に支援しますが、障害はごく幅広くて、知的障害、脳性麻痺、今関わっている自立訓練、主に高次脳機能障害の方ですが、支援が異なることが多々あります。色々学べる面白さはありませんがこの仕事に就いて、これで極めたというのは全然甘いと思っています。「他の専門職はこんな考え方をするんだー」とか、かなわない部分はありますが、日々色々な知識を得て技術向上につなげていくのが、楽しみ・やりがいであり、この仕事の醍醐味だと思っています。



並木 裕太郎 氏

環境が違うので、オムツ交換一つでも環境が違うところでいかに利用者さんに負担をかけず、心地良くできるか？と、日々勉強です。マニュアルはあってもその通りではなく、環境に合わせて工夫することが訪問介護の醍醐味でもあります。時間の制約や物品が揃っていない中、家にある物を活用する必要があり。食事、材料のない中で作ることもあり、自分の力が活かせるころと思っています。

◎藤巻 色々なやり方を覚えて、学ぶことで、自分の中で選択肢が広がって、「個々人にあったやり方」を選ぶのに経験も大事です。未経験の人やこの福祉の仕事始めて、知識も技術を高めたい・学びたいという方も大好きです！

◎和田 以前は音楽フェスの環境ボランティアで空いた時間にみんな音楽を聞いて…。今は、子どもが小さいので、可愛くてストレス解消になります。逆にイヤイヤ期でストレスも溜まります。

ストレス解消法は？

◎藤巻 しっかり休みを取ること。休みの日は家族と一緒に過ごしたり、一人の時間を意図的に作ったり、バランスを取っています。お酒も大好きです！

◎並木 3Kと言われますが、いいこともたくさんある仕事です。辛いだけの仕事じゃない。実は輝いている仕事…という思いをみんなで感じ取っていたとき、この仕事をやってみようかなって思ってくれたら嬉しいので

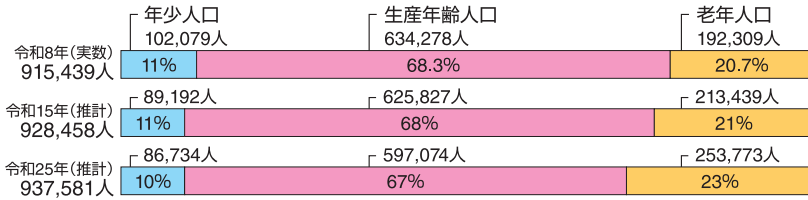
これからの方に 伝えたいこと

◎並木 3Kと言われますが、いいこともたくさんある仕事です。辛いだけの仕事じゃない。実は輝いている仕事…という思いをみんなで感じ取っていたとき、この仕事をやってみようかなって思ってくれたら嬉しいので

データでみる世田谷

世田谷区の人口

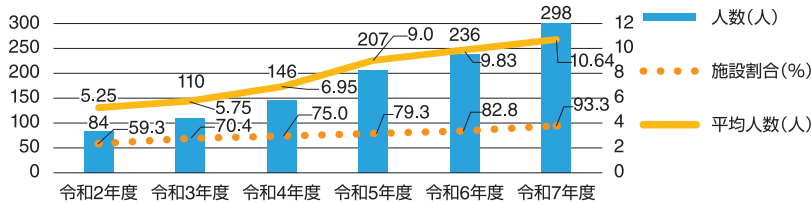
● 年齢階層別人口（各年1月1日）



● 令和6年(2024年)より人口増に転じ、増加傾向が継続する。区の人口は、令和24年(2042年)の 937,270人をピークに減少に転じる。出展：世田谷区人口推計(令和5年7月)

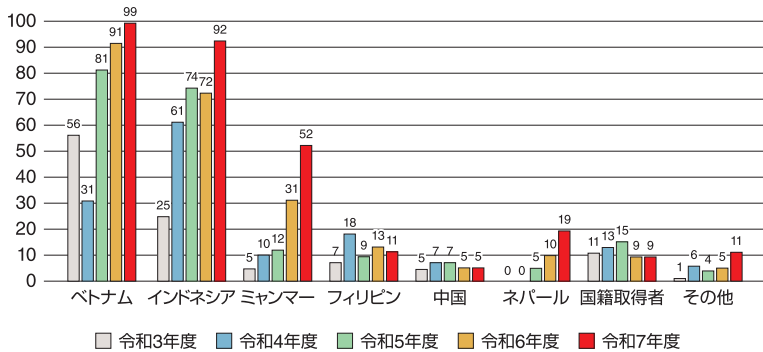
福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査 抜粋

□ 特別養護老人ホームの外国人職員の推移



年度	在籍施設数	施設割合	人数	平均人数
令和2年度(27施設 2,025人)	16施設	59.3%	84人	5.25人
令和3年度(27施設 2,025人)	19施設	70.4%	110人	5.75人
令和4年度(28施設 2,054人)	21施設	75.0%	146人	6.95人
令和5年度(29施設 2,162人)	23施設	79.3%	207人	9.0人
令和6年度(29施設 2,162人)	24施設	82.8%	236人	9.83人
令和7年度(30施設 2,191人)	28施設	93.3%	298人	10.64人

□ 特別養護老人ホームの国別外国籍職員の推移(人)



す。私が知っていることや苦勞したことはお伝えしたいし、お手伝いしたいです。

◎武田 先ほど言ってくた、言いましたが、それでもやりがいがある一人の方にじっくり関わりながら信頼関係を築いて、看護師としてしっかり関われる仕事なので、病院勤務も大事なこと、看護の専門職としての力を発揮できるのは訪問看護

「下のお世話が辛い」と辞めた人や夜勤が辛くて辞めた人はいません。福祉の仕事のやりがいなど、ぜひ体験してきていただくことを活かすことができます。お子さんが

◎和田 ここ10年ぐらいでワークライフバランスや処遇改善等で、働きやすく報酬も上がってきたと思います。別の業界から来ても

「下の世話が辛い」と辞めた人夜勤が辛くて辞めた人はいません。福祉の仕事のやりがいなど、ぜひ体験してきていただくことを活かすことができます。お子さんが

◎塚越 訪問介護の仕事は、「人間力」というか、その人の力を発揮でき、経験してきたことを活かすことができます。お子さんが

保育園に行っている空いた時間での勤務もあります。一人で訪問に行くので、ハードルが高いと敬遠されるかもしれませんが、事業所でフォローしますので、安心して訪問介護の仕事をやってみたいと思います。

◎藤巻 福祉の仕事や介護の仕事はネガティブな印象があると思いますが、皆前向きに福祉の仕事や介護

の仕事の価値を向上させたとい日々活動しています。毎日、素敵なエピソードが生まれています。人と関わる仕事は、やりがいもたくさんあるので、福祉の仕事に少しでも興味がある方は一歩踏み出してみませんか。研修体制、DX化も進んでいるので、未経験の方でも安心して福祉の仕事にチャレンジしてください。ぜひ福祉の職場と一緒に働ければと思っています。



瓜生 律子

◎瓜生 福祉の職場には、魅力的な先輩方がたくさんおられます。知識や技術、経験に基づいて、人々の幸せのために、ぜひ一歩踏み出していただければと思います。皆さん、お待ちしております。

世田谷区福祉人材育成・研修センター 高次脳機能障害支援力向上研修の長谷川先生の講義は、広報紙「じんざいくん便り第35号」研修ピックアップに掲載しております。じんざいくん便りは、研修センターホームページでご覧いただけます。



障害のある方々から学ぶ ～その人らしい生活の実現に向けて～

長谷川 幹 先生 世田谷公園前クリニック名誉院長
日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会代表理事

インタビュー 瓜生律子 世田谷区福祉人材育成・研修センター参与



◎医師になったきっかけ

●島根県の人口3万ぐらゐの平田市（現出雲市に合併）で生まれ、大学で東京するまで過ごしました。医者になったのは中学の時に父が脳出血、高校の時に母が癌になったことがきっかけだと思います。

●1974年。医学部を卒業して、整形外科医になりましたが、長野県の鹿教湯温泉の病院で脳卒中患者の「障害」を診る医師がほとんどいないことに驚き、1982年、世田谷区の玉川病院リハビリテーション科に赴任しました。入院中に大変努力していたのに退院して能力低下される人がいて「地域はどうなっているのか」と、その年の秋に保健師、医療関係者、福祉関係者と入院中と自宅での時期別の事例検討をはじめ、年に数回行い地域が分かってきました。

◎障害がある方々との出会い

●1984年。保健師の支援の下、障害のある人や家族が「たつなみ会」を立ち上げました。会長は退院時、重介助で歩けましたが、数年後に見守りで歩けるまで回復された姿を見て衝撃を受けました。会長は皆の模範となるために、家や砂浜で歩く練習を一生懸命頑張り、役割を持つことで意気込みも変わることが分かりました。では障害のある人が10年後、20年後はどのように変わるのかと考えて、色々な活動を行うきっかけになりました。

◎障害のある方々に学ぶ

●1998年。桜新町にクリニックを新設し、外来のほか訪問診療に力を入れて、色々な障害の人たち、福祉職、保健師た

ちと勉強会、玉川町会や商店街の方たちと色々なイベントを行いました。障害者と模擬体験に車椅子の人、聴覚障害、視覚障害のある人を講師に呼んで、日常生活を話してもらつと、緊張感溢れる講義で、我々が語るよりも全然迫力がある。視覚障害のある人は「初めて町会の人と話ができた」。町会の方たちも「初めて視覚障害の人と話して、日常生活が分かった」という言葉を今でも鮮明に覚えています。

●交流する機会が圧倒的にないので、障害のある人と一緒にデパート、レストランとか町に繰り出し、色々な話を聞きました。●サッカークラブの小学生と障害のある人の交流会で子どもは、初め「びっくりした」「嫌だな」と思ったけど、「これから障害のある人と協力しなくちゃ！」という思いが変わっていく感想文を読んで、小学生の時から障害のある人との交流が必要だと実感しました。その後、2004年の「世田谷区の政策提言の会」「世田谷福祉100人委員会」「せたがや福祉区民学会」の立ち上げに関わりました。

●若い人の意見は非常に刺激になるので、せたがや福祉区民学会の理事に学生に加わってもらいました。これから30〜40代障害のある人や医療関係者の参加が増えるといいですね。

◎これからの人に伝えたいこと
●障害がある人から学んで欲しい。障害のある人は支援されるだけでなく、双方の関係になれば、障害がある人たちも力を発揮でき、経験・体験が活かせるという意味、**絶望的なところから這い上**

がってこられた障害のある人たちが発する言葉の重みを学べば、世の中変わると思えます。新たに障害になられた方も、ロールモデルが周りにいれば、落ち込むことはありますが、復活しやすくなります。障害のある人の生の声を聞くことが鍵だと思います。

◎今後の活動は

●44年間の「障害のある人たちから学ぶ、障害のある人との実践」活動を取りまとめ出版します。また「日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会」で障害のある人が「うつ」とかで落ち込んだ後、自分を取り戻して主体的に活動していくために、支援者側が入院中からどう考え関われば良いか、医療の世界だけでなく心理学者、社会学者、哲学者も交え、障害のある人も一緒に主体性の研究をしています。障害のある人たちに医療・保健・福祉の関係者の「関わり方」をまとめていて、出版を予定しています。

略歴：1974年 東京医科歯科大学医学部卒 玉川病院、桜新町リハビリテーションクリニック院長、三軒茶屋リハビリテーションクリニック院長を経て現職。外来診療と訪問リハビリを通し障がいのある人、高齢者がその人らしい生活を主体的に実践する「地域ケア」に取り組む。

社会活動：一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会代表、ほか

主な著書

リハビリ 生きる力を引き出す
主体性をひきだすリハビリテーション
脳卒中・脳外傷者のためのお助けガイド ほか

せたがや福祉区民学会 第17回大会基調講演「当事者中心の福祉を追い続けて〜障がいのある人の生活支援の現場50年から学んだこと〜」を受け、「ひとりひとりがありのままに生きられるまち世田谷」をテーマにワークショップに従事した学生理事・実行委員に感想を伺いました。

彼末 茉耶 (昭和女子大学) 学生理事

大学の学びや自身の実習の経験を深めることができました。司会や感想のスピーチなど普段経験しないことに挑戦できる貴重な機会になりました。

廣方 瑞希 (日本大学文理学部) 学生理事

ひとりひとりがありのままに生きられるまち世田谷をテーマに様々な視点から議論でき、新たな学びになりました。参加できてよかったです！

岩戸 凜 (東京都立大学) 学生理事

ワークショップを通して、他大学の学生や現場に出ている方などの意見を聴くことができ、とても良い経験になりました。

掛川 祐希 (昭和女子大学)

基調講演では、現場での実践的な学びを得ることができました。

瀧下 花菜 (昭和女子大学)

大学での学びをいかすことができ、普段交流のない方々とワーク

ショップを通じて関わることもでき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

雷霆 (日本大学文理学部)

地域の中でいろいろな人が支え合っている、つながりの中に福祉があることを改めて感じました。この経験を大切に地域に寄り添う活動を続けていきたいと思っています。

天野 伊織 (日本大学文理学部)

普段の活動を見直すよい機会になりました。新たな視点から意見を聴くことができ、現在悩んでいる点の解決に近づけたと思います。

西尾 匠史 (日本大学文理学部)

他大学の方との交流で自分の視点が広がりました。このことを生かしながら福祉に関わる時に考え動いて、ソーシャルアクションなど起こしたいです。

山田 璃緒 (日本大学文理学部)

会場の雰囲気が暖かく過ごしやすかったです。ワークショップでは、

それぞれの視点での意見が出て、自分には思い浮かばない考え方を得ることができ楽しい時間でした。

市川 麻乃 (駒澤大学)

テーマに含まれる「ありのまま」という言葉について深く考える機会となりました。本日学んだことを生かして、よりよい社会になるよう努めたいです。

小笠原 瞳 (駒澤大学)

参加者のみなさんそれぞれ、これまでの経験や視点が異なっていたため、自身の視点を広げたり学びを深めたりする有意義な時間となりました。

鈴木 彩那 (東京都立大学)

他の分野を学んでいる方と関わる中で、新しい視点や考え方を知ることができました。自分の分野とのつながりや共通点にも気づき、良い学びになりました。

西城 里咲 (東京都立大学)

普段なかなかできない体験を通して、自分とは異なる分野から福祉を学ぶ学生の皆さんの意見に触れ、新たな気付きや学びを得ることができました。

大竹 龍太 (日本体育大学)

学生同士とても話やすく、参加者の方々の話も聞け、自分の将来に

良い刺激となったと感じました。有意義な時間をありがとございました。

田村 裕介 (日本体育大学)

自分の意見を周りにしっかりと共有し、メンバーと共通点を見つけ、グループワークをすることは、良い作用が働いていて楽しかったです。

遠藤 裕斗 (東京農業大学)

現場で働いている人や同年代で福祉の勉強をしている人の話を聞き、心強く思い、貴重な場に参加でき大変感謝しています。来年から社会人となるので、言葉だけではなく小さなことでも行動し温かい社会を作っていきたいと思っています。



福祉の しごとの 魅力



憧れ続けていること

～ともに分かち合い人生を楽しみたい～

社会福祉法人ビーハッピーみのりの家
施設長 渡邊 美佐緒氏

★福祉のしごとを選んだきっかけ

私は現在75歳になり、気がつけば障害を持たれた方々のサポートをする現場で52年働いてきました。このおしごとを選んだきっかけは、高校1年生の時、滋賀県の糸賀一雄先生が全国に映画とともに、「障害を持たれた方達が生き生きと光り輝いて人生を楽しんでいる社会が成熟した社会であり、それが文化国家でありましょう」という尊いメッセージを伝えて下さったことです。

当時、私の母校の一番ヶ瀬康子校長先生が「この意味わかりますか？」と問いかけて下さったことが私の心の中に沁み込んできて、「未来への憧れ」を深く描くことになりました。そして、福祉のしごとを選ぶことになりました。

★福祉の現場のしごと

大学を卒業した後、障害を持たれた方々の入所施設で働かせていただき、小さいお子様とお母様達と仲良くさせていただきました。また、成人の方達とともに日常生活のふれあいを通し、未熟ながら沢山の尊い学びをいただくことができました。その学びから得たことは、「障害者という方はいらっしやらない。〇〇さんはこういうサポート（お手伝い）を必要とされている方」で、「その方のお手伝い、支援する人達（隣人達）に、ご自分の思いをリラックスして、ありのままに伝えることができ日常生活を周囲の人たちと快く、分かち合いながら過ごせる仕組みを準備して、実現していける現場が、福祉の現場のしごと」と実感いたしました。また、障害を持たれたことにより、必要以上に重たい荷物を周囲から持たされているその荷物のお大きさも知りました。

★みのりの家開設

現場の皆様から色々なことを教えて頂けたことがきっかけとなり、「憧れてきた世界」への思いが募り、平成元年、今から37年前に夫とともに自宅の部屋を開放して、「人と人が安心して支援者（隣人）と繋がり、人生を楽しんでいける集いの場」として「みのりの家」を始めることができました。今は社会福祉法人となり、いくつかの事業ができるようになりました。沢山の方に応援していただき感謝しながら続けております。

★大切にしている考え方

私たちの現場には大切にしてきた考え方があります。「人は生まれてきたこと、命をいただいたことが、本当に尊いかけがえのないことであり、その人と人どうしがともに思いを分かち合いながら、二度と来ない今を大切にしていくことに、惜しみない努力をしていく場でありたい」ということです。

現在35名の方が利用され、65名のスタッフが働いております。私自身、この年になっても未熟で至らないことばかりですが、みんなに補っていただき、チームとして成熟していけることを願っています。



★未来への憧れの続き

今、振り返って特筆したくなることは、当事者とか支援者とか、行政の立場とか保護者であることや、協力者であるという立場を超えて、お互いに信頼できる隣人として、分かち合い話し合い、決して対立しない穏やかな空気感を持ち続けていくことが「未来への憧れの続き」です。

これからもたくさん学んでいきたいです。

- 一般社団法人桜楓会（日本女子大学の同窓会）設立120周年記念に創設された「第1回岡岡浅子賞（社会貢献部門）」受賞
- 著書：「愛いっぱいに：みのりの家は Be Happy」渡邊 典夫・渡邊 美佐緒 ●せたがや福祉区民学会第17回大会基調講演「当事者中心の福祉を追い続けて～障がいのある人の生活支援の現場50年から学んだこと～」は、研修センターホームページでご覧いただけます。



社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団
世田谷区福祉人材育成・研修センター

〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-37-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1階
電話 03-6379-4280 FAX 03-6379-4281
URL <http://www.setagaya-jinzai.jp>
受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15



アクセス 小田急線「梅ヶ丘」駅北口 徒歩 5分
小田急線「豪徳寺」駅 徒歩 8分
東急世田谷線「山下」駅 徒歩 8分
京王井の頭線「東松原」駅 徒歩 14分
小田急バス「松原」 徒歩 1分

